

岡山県林業試験場試験研究課題事後評価票

番号	20-1	課題名	台風被害地の崩壊危険地及び更新方法判定技術等の開発	
期間	18～20年度	担当部課室	業務部	

評価項目	評価の視点	評価結果
目標達成度	5：目標を大きく上回って達成した。 4：目標を上回って達成した。 3：目標どおりに達成した。 2：目標を下回った。 1：目標を達成できなかった。	(2人) (2人) (1人) 3 (平均3.2)
有効性	5：見込みを大きく上回る効果があった。 4：見込みを上回る効果があった。 3：見込みどおりの効果があった。 2：見込んだ効果を下回った。 1：効果が得られなかった。	(1人) (3人) (1人) 3 (平均3.0)
	5：当初目的以外に著しい成果が得られた。 4：当初目的以外の成果が得られた。 3：当初目的以外の成果は特になかった。	(2人) (3人) 3 (平均3.4)
効率性 ・ 妥当性	5：費用対効果の面で極めて優れていた。 4：費用対効果の面で優れていた。 3：費用に見合った効果が得られた。 2：費用対効果の面で問題があった。 1：費用対効果の面で大きな問題があった。	(1人) (3人) 3 (平均3.3)
	5：計画より大幅に優れた手法等により実施された。 4：計画より優れた手法等により実施された。 3：概ね計画どおりに実施された。 2：計画どおりに実施できなかった。 1：ほとんど計画どおりに実施できなかった。	(1人) (3人) (1人) 3 (平均3.0)
成果の活用 ・ 発展性	5：技術移転、実用化等の具体的見込みがあり、新たな展開も具体性がある。 4：技術移転、実用化等について、今後の発展可能性が高い。 3：技術移転、実用化等の可能性がある。 2：技術移転、実用化等に向け今後の取組が必要 1：技術移転、実用化等の見込みが低い。	(3人) (1人) (1人) 3 (平均3.4)
総合評価	5：著しい成果が得られた。 4：十分な成果が得られた。 3：一定の成果が得られた。 2：見込んだ成果を下回った。 1：成果が得られなかった。	(1人) (4人) 3 (平均3.2)

助言・指摘事項等	別紙のとおり
----------	--------

評価項目：5から1までのいずれかを記入
 総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

ア 放置した後に発生した先駆植物の種構成からは、「林地保全機能がある」という結論は出せない。次世代の森林がどのように発達するかを推測して説明する責任があるだろう。成果を社会に説明する場合、単に科学データをあげるのではなく、誤解がおこらないように、丁寧に説明していただきたい。

イ 限られた時間の中で広範囲の崩壊地を調査し、一定の成果を得られたことは、評価される。今後は、必要なデータのさらなる蓄積と得られた成果の普及が重要となると考えられる。

ウ 斜面崩壊に関しては崩壊を免れた風倒被害地も調査対象とすることで表層崩壊に関わる他の要因も解明できたのではないかと思う。(例えば地下水流がある急傾斜地でも表層崩壊しなかった斜面は何が違うのか等)
播種試験に関しては樹種選択の意図が不明。また、風倒跡地の多くが再植林を条件に搬出経費等の補助を受けた事実を考えると、風倒被害にあった造林地に低木性先駆樹種が繁茂し植被が回復すれば良いのか?このような場所では植生遷移にまかせて天然林造成を目指す方針か?とも受け取られるのではないか?

エ 崩壊地の天然更新の成育状況については承知したが、今後こうした災害が発生した場合、何をどうするのか釈然としない。復旧造林として多様な広葉樹を植栽しており、今後どのように施業したらよいか指針となる物を示してもらいたい。

オ 自然災害が増加・大型化してきている現在、崩壊危険地の予測ならびに崩壊リスクを最小限にできる可能性を見出したことは評価できる。しかし、崩壊箇所の植生回復の播種試験結果は、再検討の必要性を感じた。危険を伴う課題ではあるが、県民生活に直結しており、今後も継続研究の必要性を感じる。

岡山県林業試験場試験研究課題事後評価票

番号	20-2	課題名	竹林拡大防止技術の研究	
期間	18～20年度	担当部課室	業務部	
評価項目	評価の視点			評価結果
目標達成度	5：目標を大きく上回って達成した。 4：目標を上回って達成した。 3：目標どおりに達成した。 2：目標を下回った。 1：目標を達成できなかった。	(2人) (3人)	3 (平均3.4)	
	5：見込みを大きく上回る効果があった。 4：見込みを上回る効果があった。 3：見込みどおりの効果があった。 2：見込んだ効果を下回った。 1：効果が得られなかった。	(2人) (3人)	3 (平均3.4)	
有効性	5：当初目的以外に著しい成果が得られた。 4：当初目的以外の成果が得られた。 3：当初目的以外の成果は特になかった。	(2人) (3人)	3 (平均3.4)	
	5：費用対効果の面で極めて優れていた。 4：費用対効果の面で優れていた。 3：費用に見合った効果が得られた。 2：費用対効果の面で問題があった。 1：費用対効果の面で大きな問題があった。	(1人) (3人)	3 (平均3.3)	
効率性 ・ 妥当性	5：計画より大幅に優れた手法等により実施された。 4：計画より優れた手法等により実施された。 3：概ね計画どおりに実施された。 2：計画どおりに実施できなかった。 1：ほとんど計画どおりに実施できなかった。	(1人) (4人)	3 (平均3.2)	
成果の活用 ・ 発展性	5：技術移転、実用化等の具体的見込みがあり、新たな展開も具体性がある。 4：技術移転、実用化等について、今後の発展可能性が高い。 3：技術移転、実用化等の可能性がある。 2：技術移転、実用化等に向け今後の取組が必要 1：技術移転、実用化等の見込みが低い。	(1人) (3人) (1人)	4 (平均4.0)	
総合評価	5：著しい成果が得られた。 4：十分な成果が得られた。 3：一定の成果が得られた。 2：見込んだ成果を下回った。 1：成果が得られなかった。	(3人) (2人)	4 (平均3.6)	
助言・指摘事項等				
別紙のとおり				

評価項目：5から1までのいずれかを記入

総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

ア 一定の成果は出ているが、説明の内容でわかりにくい点が見受けられた。グラフの表記を適切にするなど公表に向けた工夫を行い、活用されたい。引き続き調査すると説明されたが、この課題については目標は達成されているので、伐採時期の調査を継続するよりも、「いかに竹林を減らすか」という県民の利益に直結した課題に取り組んでいただきたい。

イ 竹林拡大防止にとどまらず、伐採竹の利用方法についても有効な知見が得られたことは、評価される。継続調査が必要な点については、今後もぜひデータを蓄積して頂きたい。

ウ 竹材伐採時期に関して多くの県林試で異なる様々な見解が示されており、この成果報告でも「岡山県では・・・」となっている。今回の成果は他府県では適応が難しいのか？もし仮にそうなら、気候条件以外に、地下茎で繋がっている竹林内での処理区の設定方法などに問題があったと思います。また、あらわれる現象を示すだけでなく、そのメカニズム解明に取り組むことで研究が発展することを期待しています。

エ 今後、健全な森づくり、林業経営の面から見ても竹林拡大防止は重要な課題であります。竹材利用に当たっては様々な分野で可能性が期待されておりますので、有効な利用方法の確立を願っております。

オ 課題名に副題が必要と考える。「竹林拡大防止技術の研究 孟宗竹の場合」
孟宗竹の伐採時期、伐採竹の処理方法（腐朽）や利用（竹炭）のための基礎データが示され、放置竹林解決法の助けになると評価できる。さらに、真竹や淡竹についてのデータもあるとよいのでは。